時一至りや、きょくと中心 あるが、そのを見いて しょうないな しょくと ない 多次 中地下出近く しょる

十岁出生净年 こちろに 高月 粉得るくりやの

お茶となるの奏由
「一日京城到着以来毎日

千家先般こられ夫人も 村家先般こられ夫人も 村地下関近く追々暖気 村地下関近く追々暖気 はぬ花見いたし候 京 はぬ花見いたし候 京 頃見頃になるべき由ニ候 切に至りやや寒く此廿日

満員物価高く内地の当地好景気旅館超

至極健康ニ付御安渡り候十七日出立汽車にて奉天に倍に候

おりい

到相追你之分的安

渡り候 倍に候 満員 城に至りやや寒く此廿日 帰りの船ハ大連より十 心被下度 至極健康 当地好景気 十四四 十七日出立汽車にて奉天に 頃見頃になるべき由 はぬ花見いたし候 にて神戸着ニ候 二日乗船鴨緑丸 日 物価高く内地の ニ付御安 旅館超 京城不 匆々 -知火旅 . . 二 候 京

館

長尾